



# にとな便り

国立病院機構  
千葉東病院  
043-261-5171

第16号  
平成24年2月1日



年頭の御挨拶  
平成24年1月4日

新年を迎えまして、本年が皆様にとって良い年になりますよう、心からお祈り申し上げます。

国立病院機構は、平成16年に独立行政法人化した後、5年間の中期計画が終了し、平成21年度からは第2期中期計画に入っています。国立病院機構全体としては、初期から経常収支率は100%を超え、健全な経営を行っております。

しかしその一方で、赤字が継続している病院もあり、当院もその赤字病院の一つですが、機構病院全体では、現在ある病院が老朽化して、今後建替が必要な病院が多いこと、また医療機器、特に大型医療機器の更新を数年に一度行う必要があるため、赤字の病院では、経営状況を改善させるための経営改善計画を実施してきました。その結果、20年度では赤字病院が38病院でしたが、21年度では30病院に、22年度では、20年度の半分の19病院に減少しました。

当院での、平成23年度の経常収支率（賞与引当金平年度化後）は、昨年の11月末までで98.8%と、22年度の同時期までの97.7%より、1.1%も改善しましたが、11月末の時点で約5200万円の赤字になっています。もう少しで赤字から脱却できますので、残りの3か月間、経営改善へ向けて、宜しくお願いします。

さて新年を迎えて、夢のある話、建築の話をしたいと思います。1つめは、重心病棟の建替の話です。60床の2箇(ケ)病棟で、2階建てになります。すでに基礎工事は大分出来上がり、5月の連休明けに、病棟の引越しの予定ですが、工事の進捗状況は、

やや遅れているということです。引越しが終了した後、療育指導室および第一療育訓練棟を解体して、その跡地に新しい療育指導室および療育訓練棟の建設が始まります。そして、すべてが完成するのは、今年の年末になるとの事です。

2つめは、2階建て16室の、単身用のリース宿舎（ルミエール千葉東III）ですが、こちらの方は予定通り、順調に進んでおり、3月末に竣工予定です。

3つめは、病院建替の話です。以前は、各病院の黒字分を預託金として機構本部に預け、病院建替の費用の1/3以上の預託金がないと、病院建替は認められませんでした。

従前、全面建替を行った病院は、みな、このようにして建替を行っています。ところが最近では、収支が黒字になり、建替費用の返済の見込みが立てば、1/3以上の預託金がなくとも、建替が認められるとのこと。以前は赤字病院で、再生プランの対象病院が、平成22年度に約5000万円の黒字をだし、今年度の収支も現在のところ良いとのこと、現在、建替の計画を行っている聞いております。当院も、もう少しでプラスになりますので、病院建替に向けて、すべての職員のご協力を、是非お願いします。

新年ですので、もう一つ、明るい話しをしたいと思います。

先ほどの、重心病棟および療育指導室・第一療育訓練棟の移転がすべて完了した後ですが、第二療育訓練棟を院内保育所にする方向で、現在検討を行っています。子育て支援になりますし、また働きやすい職場環境作りを行いたいと考えており、平成25年4月、来年の4月の開設を目途に、これから準備を進めていく予定にしています。

さて、最後になりましたが、当院の理念にありますように、「患者さんの人権を尊重し、十分な説明と同意に基づく、安全で質の高い医療を提供し、地域に信頼される病院を目指していく」ことを改めてお願いし、併せて皆さん方のご健勝とご多幸をお祈りして、新年の挨拶とします。今年もどうぞ宜しくお願いします。

病院長 山岸 文雄

## 目次

▶ 院長 年頭挨拶	表紙
▶ 呼吸器センター紹介	1
▶ 腎・糖尿病センター紹介	2
▶ 摂食機能向上研修会	3
▶ 新規採用スタッフ紹介	4
▶ 地域医療連携室からのお知らせ	4
▶ 外来診療担当医表	5



H23年度より、病院機能のより一層の充実・地域医療連携の推進を図ることを目的として、

- ① 腎・糖尿病センター長
- ② 神経・運動器センター長
- ③ 呼吸器センター長
- ④ 療育センター長

を院内組織として配置しました。今回はそのうち2つのセンターをご紹介します。

よろしく  
おねがいします！



## 呼吸器センター

呼吸器センター長 猪狩 英俊

### 「肺癌の診療」

千葉東病院の呼吸器科では5人の医師で診療を行っています。(山岸文雄 院長以下、猪狩英俊、水野里子、永吉 優、高柳 晋)

呼吸器疾患全般を担当していますが、最近多くなっているのが肺癌の診療です。肺癌健診や人間ドックを通して胸部X線異常を指摘された方が精査を目的に来院します。胸部X線の場合100人あたり数名の異常所見が指摘されます。数名というあいまいな数値を出したのは、集団の年齢構成に影響されるからです。しかし、こんなに多くの方が肺癌に罹患することはありません。

ここで有用なのが胸部X線CTです。千葉東病院では、放射線科の協力を経て迅速にCTを撮影し、即日(撮影後1～2時間以内)に結果説明をできるようにしています。ダブルチェックも必要になります。放射線科の池平博夫先生には、二重読影を行っていただき、読影に関連する診断の誤りがないような体制で臨んでいます。

意外に多いのは、合成影です。肺の血管や肋骨などの骨が重なりあう結果、本来存在しないものが丸く見えてしまうことがあります。CTはこれらの見極めをするのに大変有用です。

胸部X線CTは肺癌が心配で来院した人に対して、迅速に方向付けをしてくれます。癌の心配がなければその日の内に結果を説明し、紹介いただいた診療所の先生方へ返信を用意します。癌の疑いが強ければ、次のステップへ、必要な検査を組んでいきます。

癌による死亡率は減少傾向にありますが、日本では亡くなる人のうち10人中3人は癌です。そのうち、肺癌は日本人男性の1位、女性の3位となっています。

受診される患者さんとしては、気持ち穏やかではないことと思います。胸部X線CTを撮って、異常が見つからなかったことで安心していただければうれしい限りです。異常が見つかった場合は、適切な診断治療法をご提案し、納得のいく医療を受けていただきたいと思います。

肺癌は60歳を超えた頃より、罹患する方々が増えています。なかなか胸部X線CTを撮る機会はないと思います。また、被曝の問題もありますが、心配を抱えている方(喫煙歴のある方など)で、一度CTで自分の肺のチェックをしてみたいという方がいらっしゃれば、お気軽に声をかけてください。



# 腎・糖尿病センター

腎・糖尿病センター長 西村 元伸

## 【はじめに】

当院では、腎臓を専門とする病理医と協力し、小児、成人腎疾患の診断・治療を行っています。また末期腎不全に対する腎代替療法として、血液透析、腹膜透析、そして腎臓移植の全てが可能で、更に、末期腎不全の原因として最も多い糖尿病、糖尿病腎症を加え、平成23年4月から腎・糖尿病センターを組織することになった次第です。診療以外にも、腎疾患に関する啓発活動、教育にも力を入れ、また臨床研究センターと協力しての臨床研究も行い、腎疾患医療の向上に貢献しています。まずは腎・糖尿病センターの中で、内科が担当する分野について紹介させていただきます。

## 【スタッフ】

内科領域では7人の常勤内科医が診療にあたっています。各学会の指導医、専門医は以下の通りです。

腎臓学会 指導医 2人、専門医 1人、  
透析学会 専門医 2人、  
糖尿病学会指導医 2人、

## 【腎疾患】

慢性糸球体腎炎、急性腎炎、間質性腎炎、ネフローゼ症候群、急速進行性腎炎、急性腎不全は、常時扱っております。これらの診断、治療方針の決定のために、腎生検、超音波検査（ドップラー検査を含む）、MD-CT、MRI、腎シンチグラムなどの検査を実施可能です。特に重要な腎生検は2010年度には270例（内科として83件）実施しました。腎臓専門の病理医との症例検討を毎週行い、最高の治療を提供できるシステムを構築しています。そして、ステロイド療法、エンドキサンパルス療法はじめ種々の専門的な治療を行っています。また、安定した腎疾患症例については、かかりつけ医の先生とともに診察を行う医療連携体制を推進しています。そして、腎疾患の治療においては生活食事指導管理が必須となりますので、短期的な教育入院や、外部からの栄養相談の受け入れを行っています。

## 【血液浄化療法】

末期腎不全に対する腎代替療法の内、血液透析、腹膜透析は血液浄化センターで扱っております。2010年度には、血液透析導入は52例、腹膜透析取り扱い数11例でした。当院は透析の導入病院として、透析導入の準備、透析条件設定、導入時の生活指導を行っています。透析合併症としては、バスキュラーアクセストラブルに対しては血管拡張療法、手術による再建を行い、二次性副甲状腺機能亢進症に対しては、外科と協力して、薬物療法、経皮的エタノール注入療法、副甲状腺摘出術の中から適した方法を選択して治療に当たっています。

また、2010年からは、腎代替療法選択外来も開始してい

ます。ここでは、保存期腎不全の患者様を対象に、血液透析、腹膜透析、腎移植といった腎代替療法の特徴を説明し、将来末期腎不全に至ってしまった場合の治療法選択の一助にさせていただけるようにしています。

その他、血液浄化センターでは、血漿交換、免疫グロブリン吸着、白血球吸着、LDL吸着療法といった体外循環を必要とする特殊治療も扱っており、成果をあげています。

## 【糖尿病、糖尿病腎症】

糖尿病は年々増加しており、日本人の10人に1人以上が糖尿病あるいは糖尿病予備軍とされています。糖尿病のコントロールが悪い状態が持続すると、全身の臓器が傷つきます。特に腎臓、目、神経に影響がやすく、三大合併症といえます。前述のとおり、末期腎不全の原因になる腎疾患の一番が糖尿病腎症であり、2009年に日本で透析を導入された症例の44.5%が糖尿病腎症でした。当院では、糖尿病専門医と、薬剤科、栄養科、看護部、臨床検査科のスタッフ（糖尿病療養指導士11人を含む）が、糖尿病の治療、指導にあたっています。水曜、金曜の15時からは糖尿病教室を開催しています。月によって日程、テーマが変わることがありますので、スケジュールは内科外来で確認してください。糖尿病に関連する検査としては、持続的に血糖を測定することができるCGM、CTによる内臓脂肪定量、そして血管病変の指標として、頸動脈エコー、FMD、足腕血圧比、脈派速度測定などもできます。

また、当院では、1型糖尿病に対する治療も専門的に行っております。インスリン持続注入療法（CSII）、外科と協力して、膵臓移植、膵島移植を受ける患者様の内科的管理、登録を行っています。

次に小児科の担当分野について紹介させていただきます。

当院は、千葉市学校検尿、幼児検尿・腎エコーの精密検診指定医療機関であり、千葉県内各方面より多数の腎疾患患者様のご紹介をいただいています。

腎生検は昨年(2010年)追跡腎生検を含め62例施行され、IgA腎症11例（うち幼児3例）等が、新規に診断されています。糸球体腎炎の早期発見・早期治療に努め、難治性・頻回再発ネフローゼ症候群の免疫抑制剤治療を行っています。腎不全医療としては腹膜透析、血液透析（学齢以上）、移植外科チームによる腎移植（体重20kg以上の児）を行っています。県立仁戸名特別支援学校が隣接し、行き届いた学校教育も可能です。

小児腎外来は、月・木 午前、午後（午後は予約のみ）

医療機関からの依頼は随時受け付けています。

以上、当院では腎臓病、糖尿病の患者様の治療のお役に立てるよう、日々頑張っております。今後ともよろしくお願ひ申し上げます。



## 摂食機能向上研修会、 今年も大盛況に終わりました!

第29回摂食機能向上研修会が、8月25日(木)、26日(金)の2日間に渡り開催されました。当初は震災後の節電対策や夏季休暇中の開催となってしまう、受講生が集まらないのではないかと心配していました。しかし、受講生は65名と例年とほぼ変わりありませんでした。職種は、看護師37名、言語聴覚士12名、理学療法士2名、作業療法士1名、栄養士・管理栄養士4名、保育士5名、児童指導員3名、支援員1名と多職種に及んでいました。

3月末に研修会実行委員が集まり、昨年の反省とアンケート集計結果を生かして受講生のニーズに合った講義内容・講師の人选・実習のやり方などについて、研修会実行委員会のメンバーが長時間に渡って議論を交わし、「わかりやすい・専門性のある・満足できる」を研修会のテーマに計画を立てました。

一昨年から、東京歯科大学千葉付属病院に摂食・嚥下リハビリテーション・地域歯科診療支援科ができたこともあって、研修講義と実習講師の派遣協力を得ました。今年も、昭和大学歯学部口腔衛生学教室と日本大学松戸歯学部障害者歯科学講座からそれぞれ講師の派遣協力が得られました。

受講生にとって満足度の高い講義は、理解しやすいだけでなく視覚に訴える講義でした。

初日は、昨年好評だった摂食・嚥下器官の解剖の専門



家である東京歯科大学の阿部教授には、テレビ番組で放映されたDVDなどを使って、面白く話しをしていただきました。今年の一つ目の特色は、障害児者



の作業療法を専門に取り組んでいる文京学院大学作業療法学科の西方先生から「障害児者における姿勢制御の発達と、食具の選択などについて」の専門的知識を学ぶことです。さらに、東京歯科大学講師の大久保先生には、「摂食機能の発達」の講義を通して摂食機能の発達とその発達段階を具体的にイメージさせていただきました。同 歯科大学の石田講師には、内視鏡、超音波の実演をしていただき大変好評でした。もう一つの特色は、ヘルシーフード株式会社の福田さんと西田さんに、水分摂取時に欠かせない増粘食品についての基材の生産・輸入から製造工程までを詳しく説明していただきました。最後に例年と同様に永井栄養管理室長より、重症児病棟の6段階の食形態について、最新版のパンフレットを使って詳しく説明をしていただきました。病棟見学では、昨年より見学時間を長く取ってゆったりと見学できるように取り組みました。

2日目の訓練実習は、摂食機能訓練の解説講義に訓練用DVDを使って実施したためか、わかりやすく受講生もペアで真剣に演習に取り組んでいた様です。さらに、当院の摂食認定看護師の川上、阿部、大塚、鬼原の4名が実習助手として加わり指導にあたりました。教わる立場から教える立場になって大変緊張しながらも熱心に受講生の質問にも対応していました。

これからもこの研修会が、全国の重症心身障害児(者)病棟に入所している障害児(者)の食を通じたQOLの向上の一助となるべく研修会実行委員のメンバー一同で研鑽を積んで行きます。

摂食機能向上委員会 後藤保子



## ■ 新採用病院スタッフ 紹介

### 松本 育子 外科医師

出身地 千葉県

趣味 絵画鑑賞、読書、水泳

コメント 患者さまがよかったと思えるような治療を行えるように努力したいと思います。



### 細川 優子 看護師長

出身地 千葉県

趣味 ドライブ・スキー

コメント 早く職場に慣れること。また、スタッフと共に患者さんにとって安全でその人らしい療養生活の援助をしていけるようにがんばります。



### 櫻田 優子 看護師

出身地 青森県

趣味 犬と遊ぶ

コメント 早く職場になれ、仕事を覚えてみなさんの役に立ちたいと思います。  
雪が無い快適な冬を満喫したいと思います。



## 地域医療連携室からのお知らせ

当院の地域医療連携室では、診療、画像検査等の予約をお受けしております。  
患者さまをご紹介いただく際には、是非ご利用ください。

### ○診療予約（初診患者さまのみ）

予約可能診療科 ⇒ 内科（糖尿病・内分泌・腎）、神経内科、  
呼吸器内科、外科、小児科（腎疾患）

※神経内科につきましては、必ずご予約が必要です。（完全予約制）

※ご予約は、患者さま又は医療機関より電話にてお申し込みください。

### ○画像検査（CT、MRI、RI、骨塩定量）、放射線治療、栄養食事指導

※予約申込書は、当院のホームページよりダウンロードし、ご使用ください。

※医療機関よりFAXのお申し込みとなります。

予約専用  
電話番号

**043-264-3593**

受付時間

**午後2時～午後4時**

千葉東病院 地域医療連携室

電話 043-264-3116(直通) FAX 043-264-3356(直通)



## 外来診療担当医表

平成 24 年 1 月 1 日現在

診療科目		月	火	水	木	金
内科	糖尿病・内分泌	西村	祖山	関・西村 <small>(午後予約のみ・糖尿病生活習慣病 外来)</small>	西村・花岡	
	腎	小林	首村	今澤		川口
	消化器科			小島		小島
	循環器科 <small>(予約・午後のみ)※1</small>	高橋		清水	中里	神田
	アレルギー科 <small>(リウマチ・膠原病)</small>	松村(竜) 鈴木(快)	鈴木(智)	須藤	松村(竜)	松村(竜)
神経内科		新井 澁谷(和)	新井 伊藤(喜)	特殊外来 (治験)	特殊外来 (治験)	吉山 磯瀬
呼吸器科	呼吸器	永吉 高柳	新患の方のみ	猪狩	水野	山岸 猪狩
	呼吸器(第3)		猪狩 永吉	山水 岸野 高柳		
小児科		松村(千)・金本 安齋・伊藤(秀)	※2	※2	松村(千)・金本 安齋・倉山	※2
外科	肝・胆・膵 消化管 移植	剣持 伊藤(泰)	丸山 塚本	浅野	丸山 山下 浅野	剣持 大月
	ドナー		塚・丸山		丸山	
整形外科		勝見			勝見	田原
リハビリテーション科		田原	(手術日)	(手術日)	渡邊	渡邊
呼吸器外科		(手術日)	藤野 田村	藤野 田村	(手術日)	藤野
泌尿器科		香村	※2	(手術日)	香村	※2
眼科		今井(直)	(手術日)	今井(直)	今井(直)	今井(直) 中村
形成外科		千明	柿崎	千明	(手術日)	柿崎
放射線科 <small>(予約のみ)</small>		※3	※3	※3	池平 川上	※3
歯科 <small>(入院患者様のみ)</small>		大塚 澁谷(泰)	大塚(午前のみ) 澁谷(泰)	大塚 澁谷(泰)	摂食機能外来(新患) 大塚(午後のみ)	摂食機能外来

診療受付時間(初診・予約外)・・・月曜日～金曜日 午前8:30～午前11:00

予約変更専用電話番号 043-264-3593 受付時間 午後2:00～午後4:00

※1 新規の患者様は受け付けておりません。再診患者様については予約制となっています。

※2 あらかじめ、電話にてご確認の上来院下さい。(診察ができない場合もあります。)

※3 電話での相談には応じます。